

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

岩手県 雫石町

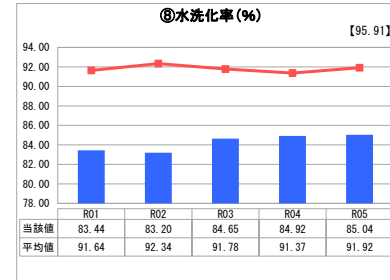
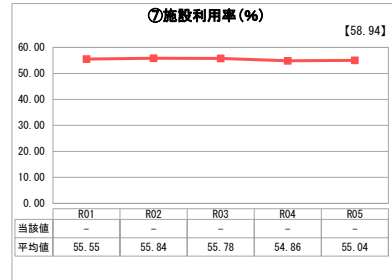
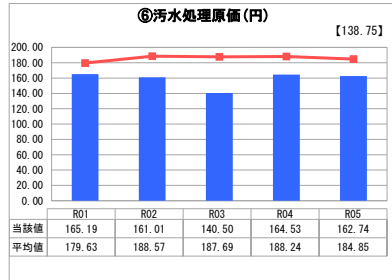
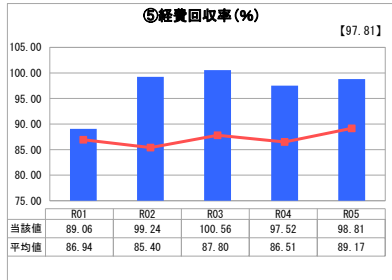
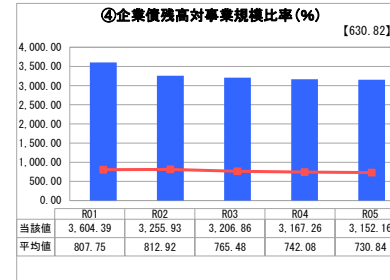
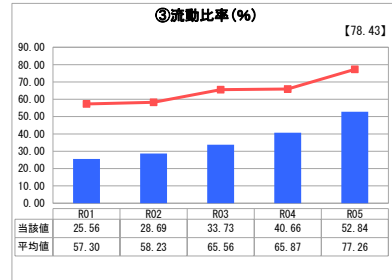
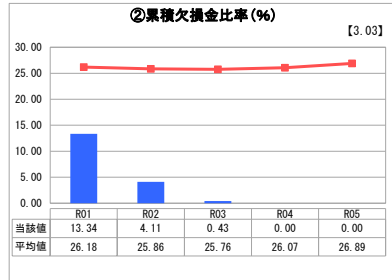
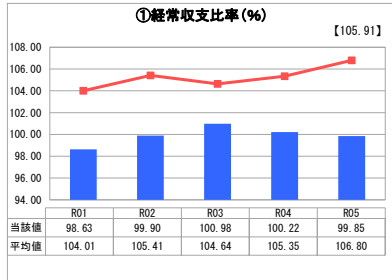
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	56.50	58.86	83.97	3,080

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,301	608.82	25.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,932	6.74	1,325.22

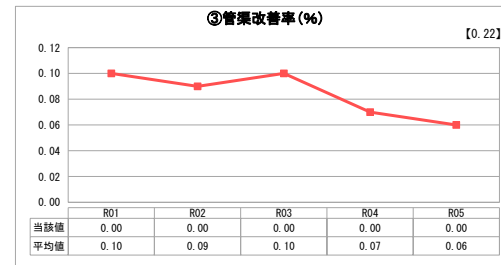
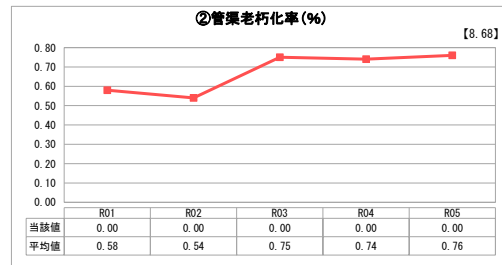
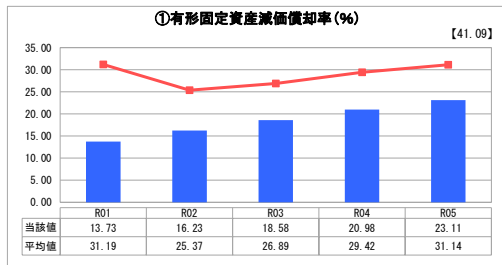
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、単年度の収支状況を表す指標で100%以下は赤字経営を示します。令和5年度は3年ぶりに100%を切り赤字経営となりました。これは人口減少に伴う維持管理費の増加の影響によるものです。今後も人口減少が続き経営状況が厳しくなると推測されますが、令和6年度に使用料改定をしたことから、令和6年度の経常収支比率は100%を超えるかと推測しています。定期的に使用料改定の検討を行い、事業見直し等を図って健全な経営の維持に努める必要があります。

流動比率は短期支払能力を表す指標で、100%以上である事が望ましいとされています。比率的推移が徐々に上昇してきていますが、未だ低水準にあるため、使用料収入を増やし現金所持の割合を上げ、支払能力を高める必要があります。

経費回収率は、使用料収入で維持管理費をどの程度賅っているかを表す指標で、100%以上である事が望ましいとされています。当町は、100%を前後する形で推移していますが、今後維持管理費の増加が見込まれ、人口減少によって使用料収入が減少する状況下で回収率100%以上を継続していくことは難しい状況にあります。

汚水処理原価は、汚水1㎡当たりの処理費用を表した指標です。当町は、人口減少等の影響で有収水量が年々減少してきており、今後処理原価が上昇していくものと推測されます。

水洗化率は、処理区域内人口のうち、実際に水洗化し汚水処理している人口の割合を表した指標で、水質保安や使用料収入の増加の観点から100%が望ましいとされています。当町では人口減少や地理的要因から今後も水洗化率の上昇は難しい状況にあります。

### 2. 老朽化の状況について

耐用年数を超過している施設等はまだまだありませんが、多くの施設等が耐用年数の半分を超過しており、今後さらに有形固定資産減価償却率が上昇していくことが推測されます。

令和3年度にストックマネジメント計画を策定し、今は策定した計画に沿って、施設の更新等を行っています。

## 全体総括

現状から、収入は自主財源が乏しく現金化できる資産も少ないことから、一般会計からの繰入に依存している状況にあります。

また、人口減少や地理的要因により排水量（有収水量）の増加もあまり見込めない状況にあり、使用料改定以外の方法による収入確保は難しい状況です。支出は耐用年数を超過した施設等はないものの、耐用年数の半分を超過した施設が多くあり、維持管理に係る経費の増加や更新に伴う企業債残高の増加などが推測されます。

これらの課題を解消するため、定期的に適正な使用料改定の検討を行い、ストックマネジメント計画に基づいて施設の更新や維持管理に努めていく必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。